

銚子漁業開拓の歴史～川口神社、千人塚、外川漁村～

千葉県・銚子市



川口神社

川口神社は、利根川の流れと銚子漁港の出船入船を望む川口町の高台にある。銚子大漁節にも「九つとせこの浦守る川口の明神御利益あらわせる この大漁船」と唄われているように、海難事故が多かった銚子において、当神社は古くから船主をはじめ漁業関係者の守り神としての信仰が厚く、拠り所となっている。神社の石段の途中には、網にかかり死んだ海亀を葬った亀の墓がある。

銚子の河口は、船頭たちの間では、阿波の鳴門、伊良湖渡合と並び日本の海の三大難所とされ、海難事故が多く発生し、「銚子の川口てんでんしのぎ」ということわざがある。これは、川口付近を航行するときは他の船のことはかまっていられず、それぞれ自分の船の安全だけで精一杯だという意味。千人塚は、こうした遭難した乗組員の御霊を祀った場所で、1706年に観音像が建立されたものをはじめ、地蔵や供養塔がある。



千人塚



崎山次郎右衛門の碑

外川は銚子の郊外に位置し、かつてNHKの連続テレビ小説「濁つくし」の舞台となったところ。紀州広村の崎山次郎右衛門により開発された漁村で、江戸時代外川築港時使用した堤防礎石で造られた崎山次郎右衛門の碑が大杉神社境内にある。